第 17 号：2017 年 3 月

（目次）


・宮沢賢治童話集と私　Ｐ１
・2016 事業報告・2017 事業計画　Ｐ２
・第 9 回総会・記念講演会報告　Ｐ３
・野鳥と民話と　Ｐ４
・しずとしょフェスタ報告　Ｐ５
・図書館からこんにちは
　市内図書館ニュース　Ｐ６
・リレーエッセイ・「ほっとコーナー」　Ｐ７
・実施事業報告　Ｐ８


# 宮沢賢治童話集と私

詩人・翻訳家
山崎　佳代子

私が最初に出会った書物は、宮沢賢治の童話集である。戦後直後に刊行されたのだったか、表紙に赤い格子があしらわれ、藁半紙のように粗末な紙だった。今から思うと、味わいの深い装丁である。夜、布団にもぐりこんだ小さな私たちのために、父はこの童話集を何度も朗読をしてくれた。仕事から帰り、夕食がおわり、お風呂からあがった父は、朗読を心から楽しんでいた。宮沢賢治の童話を聞きながら、私と妹はそれぞれの夢におちていく。休日の昼間、縁側で読んでもらうこともあった。

クラムボンは笑ったよ、赤い林檎は吹き飛ばせ、青い林檎もふきとばせ……。魂に沁みこんでいる言葉たち。「よだかの星」、「どんぐりと山猫」、「貝の火」……。悲哀と歓び、家族、孤独、宇宙、旅、愛、犠牲の意味などを描いた宮沢賢治の童話が、「見えない世界」の美しさを教えてくれた。それは文学ということである。

私が小学校に上がると、父は月給日の後の日曜日に、呉服町から七間町まで、私たちと書店めぐりをした。児童書の書棚から、好きな本を一冊、選んでいいと父が言う。あっ、宮沢賢治童話集だ。迷わずに選んだ最初の書物は、岩波書店刊、春日井たすくの淡い赤の水彩画を表紙にあしらった『風の又三郎』である。上品なクリーム色の紙はすべすべで、ページを開くと、いい香りがした。父の素朴な書物とは比べられぬほど贅沢な本である。立派な本だなと、父も喜んでいた。

月給日のあとの一冊は、素敵な儀式となった。晩秋には、『銀河鉄道の夜』を買ってもらった。同じ画家の水彩画の表紙で、淡い群青だ。小学校一年生の私は、学校から急いで帰ると、お茶の間で『銀河鉄道の夜』を拡げて読みはじめた。父の声で覚えているお話を、文字で読みすすめる。なんという幸せ。難しい漢字には振り仮名が振ってある。「何」という漢字だけが読めず、母に教えてもらったのが懐かしい。そこに近所のおばさんがやってきた。『銀河鉄道の夜』を夢中で読む私を見て、「かよちゃん、偉いわねえ、難しい本を読んでいるのね」と言って、ほめてくださる。たしかに奥付に小学５年生以上、と記されていたが、父の朗読で、お話は知っているのだから、難しいどころか愉しくてたまらない。ほめられて驚いてしまった。賢治の童話は、私にとってはまず声、音楽、それから文字となったのだから。

宮沢賢治の銀河鉄道をたどるようにして生きてきて、文学を求め、旅を続け、気が付いたらセルビアに棲みついている。父に買ってもらった童話は、ベオグラードの我が家の本棚で快い呼吸をしている。

異国で生まれた三人の息子に、賢治の童話を朗読するたび、小さな眼が輝いた。大人になった三人は、「セロ弾きのゴーシュ」が今でも大好きだ。宮沢賢治の世界は、どんな国に生きようと、私の文学の故郷である。そろそろ、三人の孫娘たちにも朗読をはじめようかと、書棚を眺めながら思っている。

# 2016年度　事業　報告

1　全体

(1) 第８回総会と講演会

於：もくせい会館　2 月 11 日　講演　「マンガとアートと静岡」　しりあがり寿 氏　107 人参加

(2) 第 20 回静岡県図書館交流会（実行委員会と共催）

於：静岡県立中央図書館　6 月 4 日　　52 人参加

・掛川・芝川・藤枝図書館の活動報告

・講演　「未来の図書館始めませんか？　――まだ図書館がすべきことを探して――」岡本 真氏

2　学ぶ活動

(1) 図書館セミナー

於：産学交流センター（ビネスト）8 月 19 日 夜 7：00～8：45 テーマ「本とつながる、人とつながる」市原健太氏(古書店店主)、川村美智氏(アイセル館長)、宮本博之氏(静岡市立中央図書館副館長)の３人によるトークライブ　　60 人参加

(2) 「図書館見学マニュアル」作成･･･全会員に配布済み

3　広める活動

(1) 会報の発行　年 2 回（第 15 号 3 月、第 16 号 9 月）

(2) ホームページリニューアル準備

(3) 静岡市立図書館の「雑誌スポンサー制度」に協力

4　支える活動

(1) 図書館充実支援のための働きかけ

・図書館協議会委員他関係者への資料提供。図書館協議会、県・市議会傍聴

・「静岡県立図書館の新館建設についての要望書」 を木苗直秀静岡県教育長に提出　　11 月 16 日

(2) 静岡市立図書館への図書の寄贈　　しずとも基金より　　464,712 円

(3) 2016 しずとしょフェスタ（静岡市立中央図書館と共催）10 月 30 日

・妖怪図書館―静岡版ハロウィンを楽しもう―　・妖怪原画展・おもしろ妖怪学・妖怪人気投票・ブックトーク・手回しオルガン・青空コンサート・フィルムコートかけ体験・図書館ツアー・移動図書館車展示　　延べ 292 人参加

(4) 他の図書館関連団体との協力

・「図書館友の会全国連絡会」「としょかん文庫・友の会」等全国組織と県内の図書館友の会等との連携

・沼津市立図書館への指定管理導入問題について情報提供・運営委員 2 人講演

(5) 静岡市科学館る・く・る「めばえの科学」おはなし会に協力　4 月と 10 月

(6) ブックリサイクル、古本市への協力

しずとも基金報告

2010～2016 年度の寄付総額

| | | |
|---|---|---|
| | | 4,100,134 円 |
| 書籍 | 461 冊 | 3,917,644 円 |
| 書庫 | 1 台 | 67,200 円 |
| 雑誌スポンサー | | 115,290 円 |

会員数 219 人　2016 年 12 月末現在

# 2017年度　事業　計画

1　全体

(1) 総会・講演会（２月２６日）：実施済

(2) 第 21 回静岡県図書館交流会共催（5 月 22 日㈪午後予定）

2　学ぶ活動

(1) 図書館セミナー―　１　（未定）

(2) 図書館セミナー―　２　山崎佳代子氏講演会　（11 月 26 日㈰午後予定）

3　広める活動

(1)会報の発行　年 2 回　　(2) ホームページのリニューアル

4　支える活動

(1) 図書館充実支援のための働きかけ

(2) 静岡市立図書館への図書等の寄贈

(3) 市立図書館主催「しずとしょフェスタ」などへの協力

(4) 会員の活動への支援・協力

(5) 他の図書館関連団体との協力

(6) 文化活動への協力

(7) 市民団体活動への協力・支援・後援

(8) 古本市への協力

# 静岡図書館友の会　2017 年度 第 9 回総会・記念講演会

## 総　　会

**〇日　時：2017. 2. 26（日）　13:00～13:50**
**〇会　場：静岡県総合研修所もくせい会館　１階富士ホール**
**〇参加者：45 名**

今年の総会は 2 月 26 日に開催されました。下記の 1 号から 6 号までの議案が滞りなく承認されました。
前年度の事業報告をパワーポイントによるスライドで行いました。このスライドはリニューアルしたホームページにも載せてありますので是非ご覧ください。

- 第１号議案　２０１５年度事業報告
- 第２号議案　２０１５年度会計及びしずとも基金決算報告
- 第３号議案　２０１５年度会計監査報告
- 第４号議案　２０１６年度事業計画
- 第５号議案　２０１６年度予算
- 第６号議案　役員改選

記念講演会風景

## 記念講演会

静岡県総合教育センター・主査・水井千保子

**〇日時：2017.2.26(日)14：30～16：00　〇講　師：髙橋源一郎　氏　〇参加者　：　193 名**

当日に演題を決めてしまった高橋氏。止まっていると思考が止まるので歩きながら話しますと、用意された演台を後ろに下げマイクを持ってステージ上で自分の取り扱い説明をされました。自称「シャイで話下手」と仰っていましたがデビュー三年目の夏目漱石の記念講演で、阪神ネタだけで講演を終えてしまったと面白可笑しく話していらっしゃる姿からはとてもそうとは思えませんでした。

多くの講演を行う中で参加者の平均年齢がわかる特技を取得したとのことで、それによると文学がテーマの時は高齢者が多く、またどんどん年齢が上がっていくとのことでした。またご自身の講座に参加している学生は、自称読書家と自分で思っていても「大江健三郎」も知らないし「吉本隆明」も「吉本ばなな」のお父さんという認識しか持っていなかったということです。その現状にヤケになって学生にドフトエフスキーの「白痴」を読ませたところ学生たちからは「面白い」と好評で、内容把握も完璧だったとのこと。読書離れ、活字離れと世間では言ってはいるが、本を読んでない学生は先入観がないため作者の知名度や認知度に左右されずに、本の内容だけで判断する利点もあるとのことです。

改めて、自分が書き方をだれに学んだか考えてみたところ「自分の好きな作家を見つけ、何度も読む」「その文章の秘密を探り、まねる」そうして自分から学んでいって小説家になったと気づいたとのことです。この「気づき」から、文学は読み手が内容を読み取ろうとすることが、理解し学ぶことになる。また、授業でも教師が教えるだけではなく、生徒が興味を持ち自分から近づいてきて学ぶようにすることが大切で、それは親子関係でも一緒だということです。親から欠点も合わせて学ぶ、そういう関係性がとても大切だとおっしゃっていました。ご自分の子供の成長を見ていると人間が言葉を覚える過程をリアルタイムで見ることができ、見ることでフィードバックを受け言葉に対して謙虚になったということです。親と子は互いに育てあう。また、生徒がいるから先生がいるし、読者がいるから作家がいる。こういう「気づき」が大切とおっしゃっていました。最初の取扱説明で言われていたようにあちこちに脱線した話でしたが、そのどれもが面白く、楽しい時間を過ごさせていただきました。

# 野鳥と民話と

児童文学作家　望月　正子

「子どものころ見た風景や暮らしは、私の絵本だった」と言われた作家がいます。

私は何を見て何を感じ取ってきたのやらと、ぼんやり過ごした子ども時代を後悔したものですが、野鳥の会に入って鳥を見に行くようになり、私にも絵本のなかに踏み込んだように思えるときがあるのです。

ベテランはまだ暗い森や林で囀り始めた鳥の声を聞き分け、その鳴き声のリズムや抑揚を「ツピーツピー、ジュクジュク」と声でまねしたり、「一筆啓上仕り候」と人の言葉に置き換える聞きなしで見つけ方を教えてくれました。

あるとき、長野の白馬で、一度で覚えてしまったほど印象的な鳴き声の鳥、アカショウビンに出会いました。宿の裏の林で、夕闇に浸みこむように「ホロロロロー」と、尻下がりの震え声で鳴いていました。図鑑には、嘴から足まで朱色のカワセミ科の鳥で、「キョロロロロー」と朝夕鳴くが、雨の日は日中も鳴くので「雨乞い鳥」「水恋鳥」とも言うとありました。翌朝、声を追って探し回り、青葉の中でやっと見つけたアカショウビンはまさに火の鳥、あの興奮は忘れられません。

その後、民話の会の採訪で各地に行って話を聞くとき、昔話の他に必ず、鳥の昔話や聞きなしも聞くようになりました。　こんな話がありました。

「アカショウビンは、親が病気で水を飲みたがっても飲ませず、化粧ばかりしていた人の生まれ変わりでな。その罰で水を飲みたくても水に映る赤い自分の姿が火に見えて飲めないのだ。それで、雨が降りそうなときは口を開けてヒョロロロローと鳴くのだが、口に一粒しか入らない。だからいつも喉が渇いていて、水を乞うて鳴くのだよ」。

その後、静岡の藁科川の上流で渓流釣りの人がアカショウビンを見たという話を聞きました。さっそく仲間と探しに行きましたが見つからず、近くの畑で農作業をしている人に鳴き声をまねして聞くと、「それかどうかはわからんが『ミットロロウ』というのは知ってるよ」と言います。それだ！　鳴き声をどう聞きなすかは、図鑑の「キョロロー」と私の耳に「ホロロロー」と聞こえただけでも違ったのですから。そのうえ「わしゃあ姿を見たこたぁないが、派手な人のことを『ミットトロウのような人だ』といったなあ」と。なるほど、アカショウビンは全身真っ赤、嘴も大きく目立ちます。確信しましたが、その日は会えませんでした。

鳥の呼び名や鳴きなしも地域によって様々で、よくよく自然に親しんでいたとわかります。それにしても、ヒバリの「日一分日一分」「利取る利取る」とか、イカルの「お菊二十四」、ツバメの「土食って虫食ってしぶーい」などなど、なんと愉快な聞きなしかと、興味がつのります。

今は、野鳥と民話の世界を重ねて楽しみ、野鳥の会では昔話を紹介し、民話の会では聞きなしや野鳥の姿を映像で見せ、鳴き声まで聞かせて自慢しています。

## 2016 しずとしょフェスタ
# 妖怪図書館―静岡版ハロウィーンを楽しもう―

10 月 30 日(日)に静岡市立中央図書館としずともの共催でイベントを開催しました。東京から作家や画家を招いたり、珍しい手まわしオルガンのミニコンサートを開くなど盛りだくさんの催しとなり、この日は多くの来館者を迎えました。

## アンケート結果をご紹介します

**移動図書館見学・図書館ツアー**

・書庫を案内してくれたのが良かった
・普段見られないところが見られて良かった。図書館をこれから色々活用していきたい
・移動図書館も意外に広いんだなと思いました

**妖怪チームによる講座「妖怪とあそぼう」「おもしろ妖怪学入門」「ブックトーク」**

・妖怪について知ることができた
・子どもと一緒に楽しめた
・視覚的なものを多用してくれたのでわかりやすかった。
・妖怪チームの方の読み聞かせ、音と声に引き込まれた。
・お話もクイズもとても楽しかったです。
・全国の河童が面白かったです。
・お面づくり楽しかったよ

**妖怪チームの皆さ**
作家　堀切リエ氏　画家　石井勉氏　装丁　松田しず子氏

**フィルムコートかけ体験**

・前に一回やったことがあるが難しかった。説明がわかりやすくて上手くできた。楽しかった
・初めてやりました。意外と難しくて大変でしたが手伝ってもらって上手くできました。

**山本耕三さんによる手まわしオルガン**

**手まわしオルガン・ミニコンサート**

・図書館に音楽が流れているのも良いなと思いました。
・小さい子どもでも楽しめて良かったです。
・手まわしオルガンを始めて見て聞きました。素敵ですね。

**ブックトーク会場の様**

**まちかどコンサート**

・職員さんの宣伝で来ました。今後もコンサート楽しみにしています。生の音楽をバックに読書とかいいんじゃないでしょうか？

**妖怪原画展　好きな妖怪に投票**

**延べ 292 人参加　図書館がより身近に感じられたのではないでしょうか？**

## 速報！

**■今年度図書館セミナーの講師が決定しました！**

巻頭言を書いて下さった**山崎佳代子氏**です。ベオグラードから一時帰国中の貴重な機会に講演をお願いできました！~~**１１月２６日(日)午後**です。~~是非ご参加ください。お楽しみに！

**６月１７日（土）午後**

■しずともものホームページがリニューアルし、URL が変わりました。

http://shizutomo.sakura.ne.jp/　　「静岡図書館友の会」で検索してみてください。

# 図書館から　こんにちは

## 「ＹＡ」×「図書館」

静岡市立中央図書館　主事　朝賀皓一郎

私がＹＡサービスを担当して１年が経ちます(「ＹＡ」とは、ヤングアダルトの略で、13～18 歳の世代を示します)。私が図書館で働いて感じたＹＡの印象は、「図書館をよく利用しているが、利用者や利用目的は限定的」です。私達は、いかにそんな彼らの関心を惹き、魅力的なサービスを提供するか考えています。

例えば、昨年８月に初開催した「絶叫ライブラリー」というイベントがあります。これは、本を紹介して、その中のお気に入りのワンフレーズを叫ぶというものです。発表者は、①観客による共感ポイント、②声の大きさ(デシベル数)の２つの合計得点を競います。図書館で叫ぶという斬新な企画として様々なメディアで紹介され、第１回は９人もの発表者が絶叫してくれました。

また、同じく昨年９月に初開催の「ＹＡコンサート～音楽が彩る本の世界～」。こちらは、地域の音楽団体に依頼し、本の紹介とそれに関連する曲の演奏をしてもらいます。第１回は、静岡城北高校ギター部の皆さんに演奏していただき、初回にもかかわらず満席となりました。

他にも、依頼を受けた市内の学校へ出向いて「ブックトーク」をしています。ブックトークとは、１つのテーマに沿って様々な本を紹介していくものですが、相手は部活や勉強に忙しいＹＡ世代です。ただ本のあらすじを紹介するのではなく、写真やイラストを使い、少しでも興味を引けるよう工夫を凝らしています。H28 年度は「旅」をテーマに、静岡女子高校と静岡商業高校を訪問しました。

このように、図書館ではＹＡを対象としたサービスを実施しています。この世代が図書館資料を活用してくれることが一番嬉しいですが、まずはこうした活動の存在を認知していただきたいと思います。

# 市内図書館ニュース

## 「わらべうた」と「手遊び」

静岡市立中央図書館　勝見留理

先日、休館日を利用して「わらべうた」と「手遊び」の館内研修を行いました。60 名の職員が童心に返り、笑顔あふれる楽しい会となりました。

日本には、「わらべうた」や「手遊び」がたくさん伝承されていますが、今ではその多くが忘れられつつあるように感じます。心地よいリズムの中に、ものの数え方、あいさつ、家族の呼び名、動物や食べ物の名前などがおりこまれ、日本の風土や慣習に深く結びついています。

私たちが各館で行っている「おはなし会」において、それらは次のおはなしへの導入や少し飽きてしまった時の気分転換として、とても大事な役割を担っています。

最初は戸惑いながら恥ずかしそうにしていた子が、次の回では得意顔で覚えた手遊びを披露してくれる姿を見ると、なんだか温かい気持ちになります。

繰り返すことで覚える言葉の楽しさ、身体を使って触れ合うことのあたたかさを感じてもらい、自分がそうであったように、大きくなった子どもたちが「このわらべうた、どこかで聞いたな」「この手遊び、だれかに教わったな」と思い出す……そんな日が来ることを願いながら伝えています。

## 会員リレーエッセイ

# 「小さな・小さな・絵本のお家」にどうぞ

**市川日出子**

「市川さん、こんにちは遊びに来たー」小学生 4 人が緑のドアを開けて入って来る。「ねえ、ピアノ弾いていい？」「どうぞどうぞ！」　絵本のお家で一番の人気ものはピアノ。「猫ふんじゃった」だか「猫ふんづけられちゃった」だか、各自が変奏した曲想で演奏。続いて、シーズンオフの「ジングルベル」。レッスンや親の目の届く所だったらＮＧを出されるのが気になってストレスが溜まるけど、あー、すっきりした、とＭさん。ママのお膝に抱っこされた０歳児のＹちゃん、Ｉちゃん、Ｋくんもピアノ大好き！立派なジャズ奏者です。

そうこうしている内に気持ちも解れてきて、手遊び、わらべ歌、体動かし遊びへ誘います。絵本を読める雰囲気だったら、ＴＰＯで読む。でも無理はしません。興味ある遊びに集中していればそちらの展開を重視。共感、共動、共遊をモットーにしていると、誰とでもお友達になれちゃう。私、いっちゃんの特技です。

熟年の訪問者は絵本大好き人。『どうぞのいす』『ジオジオのかんむり』『ちょっとだけ』『じごくのそうべえ』『百万回生きたねこ』『宮澤賢治』・・・。Ｑ:ここは子ども達だけでしょ？Ａ：いいえ、０歳から百歳までが対象です。じゃまた来るから次は『こんとあき』読んで。

新築で木の匂いがたちこめていたこの家も満３歳。７００冊の本と人息と心意気で満ちてきました。地域貢献？そんな大それた自覚ではないのですよ。自己満足に過ぎないのですが日々、皆さんとフレンドリーに関われることに感謝です

> 市川さんは静岡市葵区足久保口組で
> 月・水・金の９時～12 時、13 時半～17 時
> 家庭文庫を開いています。
> ブログ「日記:小さな小さな絵本のお家」で
> 様子を見ることができます。

～ しずとも「ほっとコーナー」 ～

# 子どもも大人も幸せになるように

**影絵劇団うた時計　吉岡一枝**

1970 年代の家庭文庫活動はとても盛んだったように思います。子どもの数も多かったので、すばらしい先輩たちがユニークな活発な活動をなさっていた記憶があります。

中央図書館でストーリーテリングの講座があり、その受講生が「静岡おはなしの会」を立ち上げ、私も参加しました。

5 歳を頭に３人の男子の親だったので、子どもたちのためになることには迷わず飛びつきました。若かったのでエネルギーにあふれていたのでしょう。「ほっぺ文庫」や「丘の上文庫」「影絵劇団うた時計」を立ち上げ、親子劇場にも参加しました。

子どもたちは成長し、40 数年経った今、「ほっぺ朗読会」と「影絵劇団うた時計」が続いています。子どものためにと始めたことが、いつの間にか自分のためにと変化しているようです。

これからは、今の自分たちにできることを見つめながら、子どもたちが生き生きと元気になるような活動を探していきたいと思います。

# 実施事業報告

## ■県、市への要望書、提言書について

ここでは「事業計画」の「支える活動」の中の「図書館充実支援のための働きかけ」についてご報告します。この活動は指定管理者問題をはじめ、職員・資料費問題など図書館を取り巻く状況の厳しい中、首長や関係者に、絶えず「市民のために健全に発展する図書館」を維持し、表明してもらいたいとの想いで行っているものです。

今までにも 2011 年 6 月と 2015 年 3 月に「静岡市立図書館の運営についての提言書」を田辺市長、高木教育長に、2014 年 11 月には「静岡県立中央図書館の運営についての提言書」を安倍県教育長に手渡しました。また県知事選と市長選には候補者に図書館に関する公開質問状をし、回答を得ています。

この度さらに、昨年 11 月 16 日には木苗県教育長に「静岡県立図書館の新館建設ついての要望書」を手渡しました。この要望書は藤枝図書館友の会と静岡県読み聞かせネットワークと私達が 24 団体の賛同をいただいたものです。

昨年の６月定例県議会の本会議で、議員から県立中央図書館が老朽化し、資料の収蔵能力も限界だが、どう対応するかという質問があり、木苗県教育長から「抜本的な施設の再整備が必要である」と答弁がありました。また 9 月 9 日の朝日新聞静岡版に、県が東静岡駅南口の県有地に「文化力の拠点」を整備するという記事が載りました。この記事の中の「各機能イメージ」というリストに「図書室 5,000 ㎡」とあります。

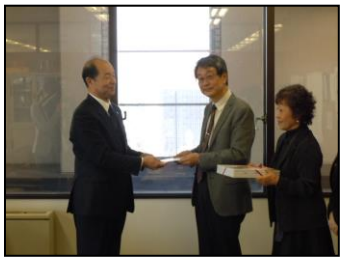
ここでの教育長の答弁が新館建設を意味するとすれば、「文化力の拠点」の図書室 5,000 ㎡がその新館ではないのかという危惧の念が起こりました。県立図書館がこの規模では市町立図書館を支援する県立図書館としての役割は到底果たせません。そこで、今回の要望書となりました。さらに現在の県立中央図書館とこの「新館」との間で機能分けをするという話しも出てきました。図書館機能は一体化することによってこそ本来の機能が発揮できます。県立図書館の今後の推移によりましては、さらに様々な活動をしてまいります。

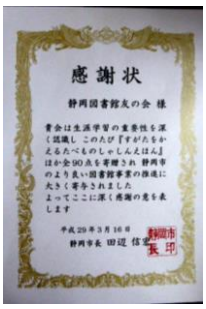
また、市立図書館については、職員の頑張りで直営で運営されているものの、正規職員、非正規職員共にモチベーションを保てる環境にほど遠いことを危惧し、主に職員問題に特化して 1 月に要望書を教育長あて提出致しました。職員が効率よく気持ちよく働ける環境が、図書館全体のレベルアップにつながると思うからです。

今後とも、県立、市立両図書館の状況の変化を知り、友の会としても、できる支援活動をしていきたいと思います。皆様のご支援よろしくお願い申し上げます。

## ■寄贈図書贈呈式を行いました

**2017.3.16　清水区役所教育長室にて**






静岡市教育長、教育局長、理事、参与、中央図書館正・副館長の６名に迎えられ、しずともからは田中代表、髙橋副代表、稲垣会計が参加し寄贈図書目録を贈呈致しました。静岡市からは感謝状を戴き、和やかな雰囲気で歓談しました。当日の様子は後日静岡新聞に掲載されました。

静岡図書館友の会会報　No.17　2017.4
静岡図書館友の会　代表　田中　文雄
連絡先：（総務携帯）080-6910-9434
Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：sizutomo2008@yahoo.co.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞアドレス：http://shizutomo.sakura.ne.jp/
（会員数）219 人：2016 年 12 月現在
（表紙イラストデザイン：J.T）

編集後記

・編集長が長い旅にお出かけの為、今号に限りにわか編集長を仰せつかりました。お蔭さまで皆さまの協力の下、無事発行まで漕ぎつきました。代わりに編集長にはたっぷりと航海記を書いていただきましょう。次号をお楽しみに。(N.S)

・玉稿を戴いた皆様&今号の編集長殿に感謝♪。TV での Aushuwitz 博物館館長の言葉「涙を流すより考えてほしい」が木霊する。（J.T）